

卒業生の活躍紹介

大福医大 福大シンポ 川崎医療福祉大 創立30年シンポ



川崎医療福祉大(倉敷市松島)の創立30年記念シンポジウムが6日、同大の川崎祐宣記

卒業生らが登壇した記念のシンポジウム

貢献を誓った。

学生や教職員、同窓生ら約450人が出席し、椿原彰夫学長が「創設者・川崎祐宣先生の理念を引き継ぎ、医療福祉人を育成し続ける」とあいさつ。社会福祉法人旭川荘にある発達障害者支援機関や厚生労働省で働く卒業生ら4人が、障害者福祉や電子カルテの活用といった仕事内容を紹介した。

このうち、高知県の病院に勤める広地緑代さんは、聴覚障害者には手話を交えてレ

トゲン撮影に臨んでいると言い、同大の手話サークル生らと職場の様子を披露。「技術は進歩しても患者の心に寄り添う努力を続けたい」と訴えた。討論では、学生の代表らが4人に熱心に質問した。

同大は1991年4月に開学。5学部17学科あり、卒業生は約2万1千人。

(山内悠記子)